

スタディー ガイド

マハーシヴァラートリの内なる意味

バガヴァン シュリ サティヤ サイババ様の御教えを元に



シヴァラートリとは何か？

1. 今日はシヴァラートリの聖日です。シヴァは吉兆を意味します。シヴァ（吉兆）のあるところに、シャヴァ（屍、不吉）はありません。シヴァラートリの聖日は、早朝から、夜、寢床に就くまで、絶え間なくシヴァ神の聖なる御名を唱えながら神を憶念して過ごさなければなりません。神の御名があなたの舌の上で踊っていなければなりません。

—2005年3月8日の御講話

(a) シヴァは吉兆を意味します。シヴァ神が私たちの内に宿っているのですから、私たちもまた吉兆なのではないでしょうか？ どのようにしたら、私たちは常に吉兆を感じるのでしょうか？

(b) どうしたら、シヴァラートリに絶え間なく神の御名を唱え、憶念することができますか？

2. 私たちは生まれた時から毎日、夜を体験していますが、すべての夜がシヴァラートリ〔シヴァ神の夜〕と呼ばれるわけではありません。シヴァラートリの日、人々は瞑想し、シヴァ神の讃歌を歌い、シヴァ神の栄光に耳を傾けます。そのようにして一晩を過ごすため、この夜はシヴァラートリと呼ばれているのです。今夜のみならず、もし、一晩中神の御名を瞑想して過ごすなら、どの夜もシヴァラートリと呼ばれます。シヴァ神は化身ではありません。

—2009年2月23日の御講話

(c) この夜は祝福された夜です。スワミはシヴァラートリの御講話すべての中で、その重要性を強調なさっています。この特別な夜にいくつかの霊性修行を行うため、よりよい準備をするにはどうしたらいいのでしょうか？

3. シヴァラートリの意味や重要性を認識しようと努力してきた人は誰もいないようですが、実は、シヴァラートリという言葉自体が、その意味を明らかにしています。「シヴァ」は吉兆を意味し、「ラートリ」は夜を意味します。ですから、シヴァラートリは「吉兆の夜」を意味します。ここで、「シヴァとは誰なのか？」という疑問が起こります。シヴァは、すべての生き物に浸透している神性意識にほかなりません。このシヴァットワ（神性意識）は、人間だけでなく、鳥や野獣や動物たちにも同じように浸透しています。実際、私たちの生活の一瞬一瞬はシヴァラートリであると見なすことができます。シヴァラートリを年に一度の特定の日まで待つ必要はありません。

—2005年3月8日の御講話

(d) 私たちにとってこの夜は、シヴァラートリの精神を吸収し、今後の人生に不可欠なライフスタイルにするためのオリエンテーションにすぎません。私たちは自分自身にどのような変容を求めているのでしょうか？ 私たちはこの夜に、変容をもたらす新しい決意をすることができます。それはどんな決意ですか？

4. 今日はシヴァラートリのお祝いです。それは何を意味するのでしょうか？ ラートリ（夜）は暗闇と関連しています。ヴェーダは「チャンドラマー マナソー ジャータハ チャクショーツ スールヨー アジャーヤタ」（月は心から生まれ、太陽はプルシャの目から生まれた）と言明しています。月は心を司る神です。ですから、心は純粋で穢れのないものでなければなりません。

—1999年2月14日の御講話

(e) なぜシヴァラートリは心を重視するのですか？

(f) シヴァラートリの意義と、私たちの日々の生活は、どのように関連しているのでしょうか？

5. あなたが悪い資質を手放し、神聖な愛を育んだときに初めて、この言葉どおりの真の精神でシヴァラートリを祝うことになるのです。シヴァラートリに徹夜をするだけでは十分ではありません。絶えず神を黙想する必要があります。多くの人々は、シヴァラートリの夜にトランプ遊びをすることによって、自分はジャーガラナ（徹夜）を順守したと主張します。漁師は魚が網にかかるよう夢中で見守り続けます。これは瞑想と言えるのでしょうか？ 妻と喧嘩したために食事をしなかった場合、それを断食と呼ぶことができるのでしょうか？ いいえ。同じように、一晩中トランプをしていたのでは、シヴァラートリの夜に神聖な徹夜を行ったことにはなりません。皆さんは神の御名を唱え、善い行いをすることに時間を費やしながらか、この夜を過ごすべきです。

—1999年2月14日の御講話

(g) ここでスワミが強調なさっているのは、これらの吉祥の行事の真の目的を理解しないまま機械的に儀式を執り行うのは、避けなければならない、ということです。熟考してから、シヴァラートリの間に行われるさまざまな儀式について説明し、これらの行為の一つ一つの背景にある重要な意味を見つけてください。

6. 今日は神聖なシヴァラートリの日です。シヴァが世界を救うために毒を飲み、意識を失って倒れたという伝説があります。毒によって生じた熱は世界に影響を及ぼしました。世界を冷ますため、シヴァはヒマラヤ山脈を創造しました。そうして、シヴァはヒマラヤをお腹の上に置きました。その結果、ヒマラヤはシヴァの体から熱をすべて吸い取り、シヴァは起き上がったのです。この出来事がシヴァラートリ（シヴァの夜）としてお祝いされています。これは世俗的な解釈にすぎません。真実を言えば、ヒマラヤはあなたの内面にあります。実際には全世界があなたの中にあるのです。

あなたの中にある神性には誕生も死もありません。身体は変化をたどります。しかし、神性原理は変わらぬままに存在するのです。愛が変化することは決してありません。愛は常に、愛として存在します。砂糖の特質は甘さです。コーヒーや紅茶、水やパヤサム（米のミルク煮、乳粥）に入れたとしても、砂糖が甘いことに変わりはありません。

—1999年2月15日の御講話

(h) シヴァ神がハーラーハラ（毒）を飲み干したことは、非常に重要な出来事です。私たちはこのことを、日常生活における出来事とどのように関連付けられるのでしょうか？

(i) シヴァ神はヒマラヤ山脈を創造し、それをお腹の上に置き、熱を吸収させました。これらは単なる物語として片付けることもできますが、この二つの出来事には、より深い内的な意味があります。これら二つの出来事の内的意味を考えてください。そしてまた、それらと日常生活をどのように関連付けられるかを判断してください。

7. 他の日々あなたに体験するのは普通の夜です。しかしシヴァラートリは吉祥の夜です。それはどのように吉祥なのでしょう？ あなたが神の栄光を歌いながら吉祥な方法で時を過ごすとき、シヴァラートリは吉祥となるのです。心には十六の側面があります。月は心を司る神です。今日は、月の十六の側面のうち、十五の側面が欠けています。もしあなたが心を込めて神の栄光を一晩中歌えば、残りの一側面も神に融合することができます。この日は、神を熟考することによって、心を完全に制御することが可能なのです。それゆえ吉祥の夜と見なされています。不幸なことに、カリユガの時代の人々は、一晩中映画を見たり、トランプ遊びに興じたりすることによって、シヴァラートリに徹夜をしています。これをシヴァラートリと呼ぶことはできません。神を思い、神の御名を唱えることに今宵のあらゆる瞬間を捧げなければなりません。その詠唱は、内面からもたらされなければなりません。これが、内なる神の反映と呼ばれ

ているのです。

—2000年3月4日の御講話

- (j) あらゆる夜の中で最も重要な夜はシヴァラートリです。この夜に揺るぎない信愛をもって適切な徹夜の行を行えば、意識の飛躍的向上が得られるかもしれません。このような機会を得るために、私たちはどのような熱意と志を持つべきでしょうか？
- (k) この行事を思い出深いものにするためには、私たちはどれほどの献身を注がなければならないのでしょうか？ 今回、私たちが己のハートの主に、より明確に、より深く献身するために必要とされる特別な徹夜と不動心とは、どのようなものなのでしょうか？
8. 今日は、非常に縁起の良いシヴァラートリの日です。シヴァ神は吉祥を象徴します。シヴァラートリの何がいったいそれほど特別で縁起が良いのでしょうか？ 心には十六の側面があります。そのうちの十五の側面は、神に融合して、今夜は、ただ一つの側面だけが残っています。信愛と不動心を込めて靈性修行を行うことにより、この神聖な夜を正しく活用しなさい。皆さんは、どんな種類の靈性修行を行うべきでしょうか？ 心を浄めて、あらゆる邪悪な性質を取り除きなさい。皆さんの内面に邪悪な性質が生じるのは、感覚の使い方を誤っているからです。それが、すべての罪の根本原因です。靈性修行とは、ジャパや瞑想をすることではありません。皆さんは内面に純粹で神聖な感情を育まなければなりません。すべての人を神と見なしなさい。すべての人を敬いなさい。「すべての人が私のものであり、私はすべての人のものである」。ひとたび、このような固い信念を抱けば、人生において素晴らしい幸福を味わうことができます。あなたの人生には心配のかけらもなくなるでしょう。神を固く信じなさい。

—2001年2月21日の御講話

- (l) 私たちが持っている否定的な資質について熟考してください。マハーシヴァラートリの夜

に、この否定的特性をシヴァ神に明け渡すための準備をしっかりと整えることができますか？

- (m) これらの否定的な資質がないあなたの人生を想像してみてください。これらの否定的な資質なしで人生を送る場合、将来経験することになるであろうと予測される平安や愛について想像してみてください。予測された可能性のある未来に留まり、ためらうことなくみずから進んでこれらの資質を手放しましょう。
9. それゆえ「真実は舌の命。正しい行いは手の命。非暴力はハートの命である」と言われているのです。シヴァラートリは、人間にこれらの価値を教えるために祝われています。シヴァ神はまた、謙虚さの象徴でもあります。謙虚な人は吉祥（シヴァム）の化身です。方、エゴをもった人は、まさに屍（シャヴァム）にほかなりません。

—2002年3月12日の御講話

- (n) スワミは、真理の光に向かう求道者の第一の資質の一つは、謙虚さであるとおっしゃっています。シヴァ神は謙虚さの象徴です。その夜全体の目的は、寝ずに起きていて、シヴァ神の資質を吸収することです。あなたの人生において、自分自身のエゴが現れた結果、怒りや憎しみなどが生じたと気づいた出来事を、思い浮かべてください。この吉祥の夜を利用して、私たちが生まれ持った本当の性質に戻ってそこに留まり、常に謙虚さを示すと誓い、謙虚さをあなたのライフスタイルに不可欠な一部としましょう。
10. サットサング（善き交わり）は、真我の原理を理解するためには必要不可欠のものです。「一つの思い、一つのビジョン、一つの行動」この三つが統合されなければなりません。シヴァラートリは神性の唯一性を認識するために祝われます。今宵バジャンをするとき、皆さんは唯一つの思いを抱き、バジャンの至福を経験するでしょう。それは不二一元の至福です。なぜ一晩中バジャンを歌うようにと定められているのですか？ バジャンは心

を制して神に焦点を当てるために行われます。中には、バジャンをしながら、世俗的な事柄を延々と話し続ける人々があります。そのような人に近づいてはなりません。

—2003年3月1日の御講話

- (o) 思いと言葉と行動を一致させましょう。(この夜は)他の活動に従事しないと誓いましょう。しかし、静寂を保ち、あなたの思考を油断なく見張ってください。絶えず黙想することによってこの夜を過ごしましょう。この御言葉について非常に深く思いを馳せ、自分自身に課したこの命令に、心が何回従わなかったかを見極めましょう。これが瞑想への第一歩です。あなたの思考を常に油断なく見張りましょう。あなたの心の支配権を獲得するために、この夜を有益に使いましょう。

11. シヴァ意識は至るところに浸透しています。どうしてシヴァラートリを一定の時間や一定の場所に限定できるでしょう？

サルヴァタッ パーニパーダム
タットサルヴァトクシ シロームカム
サルヴァタッ シルティマローケー
サルヴァマヴルッティヤ ティシタティ

その手、足、目、頭、口、耳を
万物に行き渡らせ、
神は全宇宙に遍満している
(バガヴァッド ギター13章13節より)

もし私たちが、ひとたびこの側面を注意深く分析すれば、周りで目撃しているあらゆるものは、ほかならぬシヴァ意識であるということが明らかになるでしょう。シヴァとは、もつれた髪と虎の毛皮をまとったあの特定の姿を意味しているわけではありません。どこを見ようとも、どんな姿に出くわそうとも、子供であれ老人であれ、男性であれ女性であれ、いかなる姿の中にもシヴァ意識は光り輝いています。すべてに浸透するシヴァ意識を、描写したり、特定の時間と場所に限定することなど、どうしてできるで

しょうか？ 人々は特定の舞蹈の型に沿ってシヴァターングヴァ（シヴァ神とパールヴァティー女神の宇宙の舞）を描きます。しかし、これはただの象徴であって、本当のシヴァターングヴァを描いているわけではありません。言葉で説明することも、心（マインド）で理解することもできない、人知を超えたシヴァ意識を、人間が描写することなどできるでしょうか？

—2005年3月9日の御講話

- (p) この素晴らしいスピーチの引用は、体験という結論に要約されます。私たちの意識は、シヴァという言葉特定の姿形、空間、時間に限定することから卒業しなければなりません。私たちが目にするものはすべて、吉兆（シヴァ）に見えなければなりません。私たちが遭遇するすべての人は、吉兆（シヴァ）でなくてはなりません。私たちはどうしたらそのレベルにまで意識を進化させることができるでしょうか？

12. 美德を培って理想的な人生を送りなさい。そうして初めて、スワミは喜ぶのです。もし、あなたが理想的な行いによって私を幸せにしたなら、私はさらに多くの幸せをあなたに授けます。あなたの幸せは私の幸せです。どこに行こうとも、よい評判の立つ人になりなさい。あなたの人格は、私にとって大変重要です。ですから、あらゆる努力を傾けて人格を形成し、他の人々の理想となりなさい。これが、この吉祥のシヴァラートリの日に、私が皆さんに与えたいと願うメッセージです。皆さん方全員が永遠の至福を体験する日こそが、私にとってのシヴァラートリです。この神聖なシヴァラートリの夜に、皆さん方全員に祝福を与えます。一晩中神の御名を歌い続けなさい。そして、できるだけ神を想ってこの夜を過ごさなさい。そうして初めて、神の至福を体験することができます。神の光輝の顕現すら目撃することができます。心の底からバジャンを歌いなさい。どの御名を歌ってもよいのですが、神の御名の霊的な意味を理解すべきです。

—2006年2月26日の御講話

(q) この日に、あなたはどのような新しい理想を作ることができますか？

リングムの意味

13. (御講話を続けておられたバガヴァンは、アトマ リングムの出現が近づいて苦悶の表情を見せ始められました。バガヴァンは席につかれ、学生にバジャンを歌い始めるように合図をされました。少し経って、黄金のリングムがバガヴァンの口から出現し、バガヴァンはすべての人に見えるようにそれを高く掲げられました。) リングードバヴァム (リングムの出現) のプロセスが進行している間、もちろん、この肉体はある程度の負担を感じました。しかし、それを心配する必要はないことを私は皆さんに保証します。肉体のために苦しむのはよくあることです。それは過ぎ行く雲のように来ては去ります。

—2004年2月18日の御講話

(r) スワミは、リングムが出現する過程で、肉体にある程度の負担がかかったとおっしゃいました。しかしスワミが苦痛を感じません。このことから私たちが学べることは何ですか？

14. 各個人の中には、ヒランニャガルバ [黄金の宇宙卵を胎内に持つ者の意。ブラフマー神の別名] という根本原理があります。ヒランニャは黄金を意味します。黄金に銅や銀や真鍮などの他の金属が混入すると、純金ではなくなり、その輝きや価値は失われます。そうすると、それが黄金なのか、銀なのか、真鍮なのか、銅なのかも見極められなくなります。同じように、ヒランマヤ (黄金) である人間のハートは、ヴィシャヤ ヴァーサナー (感覺的欲望) と結びついたがゆえに、光輝や価値や人間性を失いました。その結果、人間なのか、動物なのか、悪鬼なのか、悪魔なのかも見極めることができなくなっています。

—1999年2月14日の御講話

(s) このヒランニャガルバについて理解することに、どんな意義があるのでしょうか？

(t) 人間のハートが感覺的欲望と結びつくことによって、どのように光輝や価値や人間性が失われるのでしょうか？ 実際にこのような現象があったという事例や証言を教えてください。

(u) あなたの思い、言葉、行動から、スワミはあなたのことを、人間、動物、悪鬼、悪魔のどれだと判定されると思いますか？

15. この愛の原理が「ヒランニャガルバ」 (黄金の宇宙卵、黄金の胎児) です。「ヒランニャガルバ」は人間の身体の右側 (right) に位置するものであり、肉体上の心臓は左側 (left) に位置しています。左側 (left) にあるこの心臓はいつの日にか環境の変化とともに消え去る (left) ものです。人体の右側 (right) に位置する「ヒランニャガルバ」は常に正しい (right) のです。それは不滅であり、神聖であり、永遠であり、あらゆるものを包含しています。それは、人間のみならず、鳥や獣、生き物たちすべての内に存在しています。ヴェーダは宣言しています。「イーシュワラ サルヴァブターナム」 (神はあらゆるものの内に存在する)、イーシャーヴァースヤム イダム ジャガト (神は全宇宙に浸透している)。愛はヒランニャガルバの反映であり、そこから生じました。反応、反響、反映という三つの原理もまた「ヒランニャガルバ」から生じたのです。

—1999年2月15日の御講話

(v) 通常はハートから愛が注がれます。ここでスワミは、もしヒランニャガルバから愛が注がれたら、それは不滅で神聖で永遠であらゆるものを含有すると、おっしゃっています。どのようにしたら私たちはこの愛の資質を育むことができるでしょうか？

(w) 日々の生活で行う活動すべての中に反応、反響、反映が組み込まれているという理解を、私たちはどのようにして検討し、確かめますか？

16. リンゴードヴァ 〈ババ様が口からリングムを出されること〉の意義とは何でしょう？ 神はヒランニャガルバ（黄金の子宮をもつ者）と称されます。神の胎内のラサー（金のエッセンス）は、活発な攪拌過程を経て、リングムの形状を取ります。リングムは象徴あるいは印を意味します。[ここでバガヴァンは、この御講話の冒頭で創造なされた金のリングムを掲げておっしゃいました。] 見てのとおり、リングムは目や顔といった他との区別を示す特徴は備えていません。リングムには足も頭もありません。リングムはどんなふうにも回転させることができます。リングムは無形の神を象徴しています。リーヤテー ガムヤテー イティ リンガハ（リングムは万物の源であり、万物が行き着くところである）。リングムは万物の基盤です。金のエッセンス（ラサー）はリングムの形状をとってから現出します。金を溶かすには火が必要です。それと同様に、身体の内にある炎が金を溶かします。それから金はリングムの形にかたどられます。そのようなわけで、リングムの現出には困難を伴うのです。金はリングムの形をとってから口の外に出なければならないのです。

—2002年3月13日の御講話

- (x) リンガは「無形の」姿であると言われます。どうしてリンガが万物の基盤であると考えられるのでしょうか？
- (y) リンガを顕現させるプロセスには、深い内的メッセージがあるように見えます。どうしたらこのメッセージを引き出し、日々の生活に関連付けることができるのでしょうか？

17. 体は社会の手足（アングム）です。アングムの中にはサンガム（属性の交わり）が存在し、サンガムの中にはジャンガム（個々の魂）が存在し、ジャンガムの中にはリングム（神我）が存在します。リングムは、私たちの生命原理そのものであるアートマ（真我）です。だからこそ、アートマはリングムの姿をしていると考えられているのです。リングムには始まりも終わりもありません。頭も足もありません。ですから、礼拝を行うとき、ど

のようにリングムを置いてよいのです。アートマには名前がありますが、特定の形はありません。至福こそがその真の形です。

—2003年3月1日の御講話

- (z) 真我（リング）の発見は、私たちが自己、家族、社会との関係を形成する上での根本的基盤となっているように見えます。おそらくは、私たちと世界との関わりの中に、アートマリングとのつながりがないという事実の中に、世の人々が抱えている諸問題に対する回答があるのです。この事実について熟考し、これが真実であるかどうかを見極めてください。そしてもし、それが真実であるのなら、私たちはどうやってこのつながりを作ればよいのでしょうか？

断食の目的

18. 食べ物のことは一切考えることなく、神を想うことだけに集中していなければなりません。もし食べ物のことが頭に浮かんであなたを煩わせるなら、そして、空腹の苦痛があなたの邪魔をするなら、何か食べて、それから霊性修行（サーダナ）を始めたほうが遥かによいでしょう。断食の誓いを指す「ウバヴァーサ」という言葉には、「神の近くに住む」（「ウバ」は近くに、「ヴァーサ」は住むの意）という意味があります。ですから、断食の誓いというものは、もっと神と親密になって生活できるように、食事を作ることや食べることといった煩わしさから人を解放するためのものなのです。断食の目的は、神を黙想して時を過ごすことであり、単純に食事を一食抜かしたり、一連の食事を絶ったりすることで肉体に罰を与えることではない、ということをよく覚えておきなさい。自発的に自らに課した、あるいは不本意に課された、誓い、徹夜、断食といったあらゆる類の苦勞の一切は、霊的な強さを増すためのものと見なされるべきであり、肉体的なスタミナを弱めるものと見なされるべきではありません。

—1966年2月の御講話

19. あなたが悪い資質を手放し、神聖な愛を育んだときに初めて、この言葉どおりの真の精神でシヴァラートリを祝うことになるのです。シヴァラートリにただ徹夜するだけでは十分ではありません。絶えず神を黙想する必要があります。多くの人々は、シヴァラートリの夜にトランプ遊びをすることによって、自分はジャーガラナ（徹夜）を順守したと主張します。漁師は魚が網にかかるよう夢中で見守り続けます。これは瞑想と言えるのでしょうか？ 妻と喧嘩したために食事をしなかった場合、それを断食と呼ぶことができるのでしょうか？ いいえ。同じように、一晩中トランプをしていたのでは、シヴァラートリの夜に神聖な徹夜を行ったことにはなりません。皆さんは神の御名を唱え、善い行いをすることに時間を費やししながら、この夜を過ごすべきです。

—1999年2月14日の御講話

(aa) ほとんどの儀式で定められている断食の目的とは何でしょう？ 私たちはいくつかの理由で食事を控えることができますが、その本当の理由は自制心を養うことです。眠気は抗し難いものですが、もし眠気に打ち勝つほどの霊的スタミナと強さを得ることを目指して献身的に努力を重ねるのであれば、自制心を働かせていることとなります。これは本当に必要なことなのでしょうか？ このように努力することによって、どのような利点が得られるのでしょうか？

(bb) この大いなる夜への準備として、私たちは他にどのような活動を行うことができるでしょう？

多様性の中の一体性（シヴァの家族）

20. シヴァ神の聖家族は四神だけです。つまり、イーシュワラ神〔シヴァ神〕、妻のパールヴァティー女神、そして二人の息子、スップラマンニャ神〔スップラマンニャム、スカンダ神〕とヴィナーヤカ神〔ガネーシャ神〕です。この家族はまさに理想的な家族です。夫婦の間にも、二神の兄弟の間にも、意見の相違はまったくありません。この家族には完全な協調と調和があります。母パール

ヴァティーと主パラメーシュワラ〔シヴァ神〕は、全世界に、円満で、完璧で、愛のあふれる夫婦関係と兄弟関係の模範を示したいと願っていました。「家庭」は世の中でもっとも重要な機能単位です。家庭が健全な道をたどっていれば、世の中も円滑に運ぶでしょう。家族の一員同士の一体性が少しでも揺らげば、世の中にもその影響が及びます。一体性は家族一人ひとりの生活に力を与えてくれます。ですから、どの家庭でも、家族の一員の間で、一体性と調和のある関係を築くよう努めるべきです。すべての家族がシヴァ神の家族を模範として見習うよう努力すべきです。今日では、家族に二人の息子しかいないにもかかわらず、その二人の間に調和がありません。夫婦の場合も同じようなものです。シヴァ神の家族にはこのような状況は見られません。彼らが使う乗り物、彼らが働く環境、彼らが所有する富など、実際に、すべての面において、この神の家族の一員は全世界に模範を示しています。たとえば、シヴァ神の乗り物はナンディ〔幸せなものの意/ナンディンとも呼ばれる〕という名の牡牛です。母パールヴァティーの乗り物はライオンです。次男のスップラマンニャの乗り物はクジャクですが、長男のヴィナーヤカの乗り物は小さなネズミです。彼らは、本来なら敵対関係にあるこれらの奇妙な乗り物に乗って世界中を動き回りながらも、完璧で調和のある家族生活を送っています。

—2003年3月2日の御講話

(cc) その夜は、私たち自身の家族がどれだけの調和の中にいるかを思い出させてくれます。家族の中により大きな調和と平安をもたらすために、いくらかの時間を捧げ、努力を惜しまないようにしましょう。さまざまな動物と共に暮らす多様性に満ちた家族には、大混乱が生じる可能性があります。この御言葉は、家庭円満は極めて重要であり、家族の中に平和と愛をもたらすために必要である、というメッセージです。この夜は、自分がどれだけ家族の調和に貢献しているかを振り返る夜でもあります。以下の問いかけが役に立つでしょう。

- a. 私は理想的な息子／娘だろうか？
- b. 私はどうしたら自分の両親にとってよりよい息子／娘になれるだろうか？
- c. シヴァラートリの前に、私は自分の家族との間にある未解決の問題を解決して、平和と愛をもたらす努力ができるだろうか？
- d. どうしたら私は、もっと謙虚になって、家族の他のメンバー間に生じている問題のよき調停者となれるだろうか？
- e. 私は、亀裂が入っている関係を修復して、他の人の平安と幸福の源となれるだろうか？

21. 決して神を批判してはなりません。決して神を否定してはなりません。すべてはブラフマー（創造の神）、ヴィシュヌ（維持の神）、マヘーシュワラ（破壊の神）の顕れです。すべては神です。これが、シヴァラートリというこの吉祥の日に、皆さんが学ばなければならないことです。この世の中には神でないものは何もありません。一粒の砂の中に存在する神の原理と、大きなラッドゥー（ピンボン玉大のインドのお菓子）の中に存在する神の原理は同じものであって、何の違いもありません。ひとたびこの真理に気がつけば、あなた自身がブラフマン（神）になります。あなたは、ほかのどこにも神を探する必要はありません。あなたは創造の神ブラフマーであり、維持の神ヴィシュヌであり、破壊の神シヴァであって、まさに三大神の化身そのものです。ブラフマー、ヴィシュヌ、マヘーシュワラの姿をとるのは、あなたの感情にほかならないのです。あなたは二元性に基づいた感情のために、不安や苦悩から逃れられないのです。あなたは多様性の中に一体性を見る代わりに、一体性を多様性ととらえています。一体性は、純粋性をもたらし、純粋性は神性へと導きます。ですから、皆さん方全員が一体性を身につけなければなりません。皆さんは人類に所属しています。人類という一つの家族に属しているのです。ですから、皆さんはお互いに兄弟姉妹のように振る舞わなければなりません。一体性の精神がなければ、純粋性に影響が及んで、あなたを神性から

遠ざけます。

—2006年2月26日の御講話

- (dd) なぜスワミは一体性の原理を重視されているのでしょうか？
- (ee) 私たちの不安や苦悩は二元性に基づく感情によるものだとスワミはおっしゃっていますが、それは具体的に何を意味しているのでしょうか？

22. シヴァ神は自分の身体に何も特別な装身具は着けていません。シヴァ神が身に着けている飾りといえば、首に巻き付けたヘビと、もつれた髪と、三日月と、ガンジス河の冷水と、体中に塗ったヴィブーティ〔神聖灰〕だけです。そうしたシヴァ神の神聖なる姿は、このように美しく描写されています。

見よ！ 氷を頂く山の神を
 頭には三日月の冠
 もつれた髪は天から流れ落ち
 ガンジスの冷水を浴びて濡れて輝く
 額の眼は燃えるように赤く
 美しい首はハラハラの猛毒で紫紺と化したく
 くねくねとうごめく生きた腕輪は数匹のヘビ
 ただ一つ身体にまとうは象の皮
 それをとめるベルトは一匹のコブラ
 胸には真珠色の灰が塗りたくられ
 見たものを焼き尽くす額の眼の脇には
 まばゆいばかりの白い線と朱色の点
 唇はもぎたてのキンマを咬んで赤く染まり
 ダイヤをちりばめた純金の耳輪が
 夜空にまたたく星のごとく揺らめく
 主の美しい肢体から放たれている神の光輝は
 見るものの目をくらませる
 (テルグ語の詩)

シヴァ神は、妻のパールヴァティーを含めた世界の人々に世を捨てた者の姿を教えるために、このような神聖な姿をまとっているのです。もう一つシヴァ神が慣わしとしているのは、施しを求める

ことです。こうしたことにもかかわらず、パールヴァティーは、夫のシヴァ神の奇妙な装いや習慣に対して少しの嫌悪感も不快感も催しませんでした。「どうしてこんな人と家庭生活を送ることなどできるでしょう！」と言いながら、夫のもとから逃げ出したりはしませんでした。パールヴァティーは夫の望みや幸せのために身を捧げ、夫に忠実に従いました。そうして共に平和に幸せに暮らしました。さて、次に彼らの息子たちについてです。次男スプブラマニヤ神の乗り物であるクジャクは、本来ならば、彼の父親が首に飾りに巻き付けているヘビを天敵とします。ヘビはクジャクを見るとシューと音を発します。ヘビとクジャクは互いに毛嫌うものです。同様に、長男ヴィナーヤカ神が乗り物としているネズミも、本来ならばヘビの餌食です。ヘビとネズミは宿敵同士です。このようにそれぞれが異なる性質を備えているにもかかわらず、シヴァ神の家族は、全員がまったくの平安のうちに幸せに暮らしました。家族全員が、各自の義務を果たしつつ、家族に幸福と喜びを与えました。

—2003年3月2日の御講話

(ff) それぞれのシンボルの意味を深く考えてください。それから、日々の生活の中で幸福と平安を得ることと、その意味を関連付けてください。

(gg) この大いなる夜は、私たちの敵を滅ぼすためではなく、私たちの憎しみを滅ぼすためのレッスンです。私たちが誤解しているかもしれない人々すべてに対して、どのようにしたらこれを行うことができるのでしょうか？

23. シヴァ神自身の姿の中にさえ、明らかに相反するものがあります。頭にはガンジス河が、もつれた髪には三日月があります。これらは冷たさのしるしです。それとは対照的に、額にある第三の眼の中では実際に火が燃えています。つまり、頭には冷たい水が、頭の下の方には火があるのです。水と火は対立する力です。しかしながら、この水と火は完全な調和を保って世界に模範を示していま

す。このように、シヴァ神の普遍的な家庭には、不協和音や意見の相違のかけらも見当たりませんでした。シヴァ神の家族は、世界のすべての人々が見習うべき完璧な理想の家族です。これとはまったく対照的に、今日、人は互いにひどく憎み合っています。憎しみは世界中いたる所で君臨しています。一家族の中でさえ、夫婦間、親子間、兄弟間で不和が見られます。シヴァ神と母パールヴァティー女神は、自ら手本を示すことで、全世界の人々に憎しみと敵意を捨てるよう強く勧めています。

—2003年3月2日の御講話

(hh) ここでは陰陽の原理が強調されています。地上に望ましいバランスを生み出すためには、正反対のもの同士のバランスを正確に保つことが必要です。多様性の中の一体性という原理原則がはっきりと示されるようになりました。あなたを悩ませたり、動揺させたりするような出来事や人物に遭遇したときの変化について考えてみましょう。この美しいメッセージは、私たちが視点を変え、シヴァ神の家族としてすべての人を受け入れる必要があることを教えてくれています。このメッセージは、私たちが多様性の中の一体性を体験する必要があることを思い出させてくれます。

シヴァ神は英知を授ける

24. 解脱とは何でしょう？ 解脱とは単に、神に到達するというものではありません。思いと言葉と行為が神と一つにならなければなりません。ガンジス河やゴダーヴァリー河、サラスワティー河のような河にはさまざまな名と形がありますが、一旦大海に駆け込むと、河はその名や形や特性を失います。同様に、一旦神に融合すれば、違いは全くなくなります。そのような不二一元性を経験することこそが、人生の真の目的です。

—1999年2月15日の御講話

(ii) あなたにとって解脱は何を意味しますか？

(ji) 海に合流した川は、その独自の名称を失います。このことは、私たちの霊性が高まれば高まるほど、この世界で得た己のアイデンティティーが重要でなくなることを意味します。謙虚であり、簡素であることが、霊的人物であることの証明になるのです。これは本当でしょうか？私たちの生活において、そのことがはっきりとわかりますか？

25. あなたはシヴァラートリ祭の根底に流れる真の意味と哲学を理解せねばなりません。まず、あなたは、朽ちゆくはかない肉体ではないということを実感認識しなさい。あなたはチャルマチャクシュ（肉眼）ではなく、グニャーナチャクシュ（叡智の目）で客観世界を見なくてはなりません。動物も虫も鳥も野獣も、肉眼でこの世界を見えています。もしあなたも肉眼でこの客観世界を見るのなら、それらの生き物とあなたの間にはどんな違いがあるのですか？ そうであるなら、あなたは単純に動物や鳥や野獣や虫のレベルに留まることになり、物理的世界を超えたあなたの本性を実感認識することはできないでしょう。あなたは、心（マインド）と肉体を超えた超越的実在を理解しなくてはなりません。これは、グニャーナチャクシュ（叡智の目）の助けがあって初めて可能となるのです。

—2004年2月19日の御講話

(kk) 世界を、肉眼ではなく、叡智の目で見するには、どうすればいいのでしょうか？

26. あなたはそのアートマ タットワ（アートマ原理）を、チャルマチャクシュ（肉眼）ではなく、グニャーナチャクシュ（叡智の目）で認識しなければなりません。そうすると、グニャーナ（叡智）とは何か、という疑問が生じます。それは形而下の知識でしょうか？ それとも世俗の知識でしょうか？ 自然の物体に関する知識でしょうか？ いいえ。そのどれでもありません。本当の、そして永遠なるアートマ タットワは、その人自身の身体に内在しています。それはグニャーナネートラ（叡智の目）によって初めて気づくことができるので

す。あなたは少しずつデーハビーマナ（肉体への執着）を捨て、アートマビーマナ（アートマへの愛）を培わなければなりません。あなたは自分は肉体であると考え、肉体に執着しています。

—2004年2月19日の御講話

(ll) 日々の生活の中で、アートマビーマナを培い、デーハビーマナを手放すには、どうしたらいいでしょう？

27. ヴィシュヌ神とシヴァ神は肉体的な枠に限定されていません。二神はそのようなものは超越しています。二神は無形であり、無属性です。属性を持たず（ニルグナム）、純粋で（ニランジャンム）、究極の住処であり（サナータナ ニケートナム）、永遠で（ニッティヤ）、汚れなく（シュッダ）、目覚めた（ブッダ）、解脱している（ムクタ）、神聖さの権化（ニルマラ スワルーピナム）です。それからシヴァ神は、神には名前も姿もないこと、神は不変であること、神には生も死もないこと、神には始まりも終わりもないこと、神は永遠であり真我の化身（アートマスワルーバ）であることを、明らかにしました。シヴァ神は、人間の妄想が神に名前と姿があると思わせていることを強調しました。無形なる神が、信者の願い通りに特定の名前と姿をとって現れて、信者の望みを叶えるのです。

—2009年2月23日の御講話

シヴァ神の御名の意味

28. 一晩中、神聖な御名を唱えながら過ごして、この霊的エネルギーをあまねく世界に広げましょう。イーシュワラとは誰ですか？ イーシュワラはすべてに遍満しています。風がどこでも自由に吹くように、私たちもまた、至るところに浸透しているイーシュワラ原理を見いだします。あなたの愛をすべての人々と分かち合い、全世界に神の御名を広めましょう。

—2002年3月12日の御講話

29. シヴァ神のものと見なされている御名の一つ、ムルッテュンジャヤは、「死を超越した者」を意味します。

—2005年3月8日の御講話

30. しかし、シヴァ神は「アムルタプットラ（不滅の子）」という名前を選びました。実際、人は誰もがアムルタプットラです。ウパニシャッドもそう宣言しています。ウパニシャッドは、「シルンヴァントウ ヴィシュウエー アムルタッスヤ プットラハ」（おお、不滅の子よ！ お聞きなさい）と呼びかけることによって、人間が本当は何者であるかを明らかにしています。

—2005年3月8日の御講話

31. 名前の持つ真の性質と意味を理解するよう努力しなさい。実際には、実物のイーシュワラ神を見た者は一人もいません。人々はイーシュワラ神を「カイラーサヴァーシ」（カイラーサ山に住む男神）と呼びます。カイラーサはどこにあるでしょう？ 沈黙の深みの中で神を憶念して、初めてカイラーサにいるイーシュワラ神を目にすることができます。

—2005年3月8日の御講話

32. シヴァ神をムッカントイ（三つの目の神）として描く人々もいます。私たちの目は二つだけです。しかし、シヴァ神には第三の目もついています。人は過去と現在を知っているだけで、未来を見ることはできません。それができるのは神だけです。したがって、第三の目、すなわちグニャーナ ネートラ（英知の目）で未来を見ることが出来るシヴァ神は、ムッカントイと呼ばれるのです。

—2005年3月8日の御講話

33. この神性意識に与えられた名前の一つがシヴァットワ（シヴァ意識）なのです。したがって、シヴァットワをムッカントイやトリネートラ等々といった名称によって描写するのは正しいことではありません。シヴァットワは、あらゆるものに浸透している神性意識を意味します。実際、このホー

ルに座っている信者は、全員シヴァ神の化身です。「サルヴァム シヴァマヤム」（この外界で目撃するすべてはシヴァ神の顕現である）。シヴァットワは、三界、すなわち地上界、天上界、冥界のすべてに充滿しています。シヴァットワは、時の三相のすべて、すなわち過去、現在、未来のすべてに存在しています。シヴァットワは、言葉で言い尽くせないものです。どれほど長い時間をかけても、シヴァットワを描写するには不十分です。

—2005年3月9日の御講話

34. 「ディガムバラ」はシヴァ神の御名の一つです。通常、ディガムバラとは衣服を身に着けていない人を指す言葉です。しかし、霊的な意味を調べてみると、「ディガムバラ」とは、四つの方角（ディックル、東西南北）を衣（アムバラ）としている者のことです。人々はこの言葉を誤解して、シヴァ神は身体に何もまとっていないと勘違いする可能性があるのです、バジャンの中ではこの言葉を使わないほうがいいでしょう。

—2006年2月26日の御講話

35. イーシュワラ神（シヴァ神）はパールヴァティーの本質を知っており、パールヴァティーはシヴァ神の本質を知っていたのです。事実、二人は互いに異なるものではありません。シヴァ神はシヴァシャクティー アートマカ スワルーバ（シヴァとシャクティーの具現）です。パールヴァティーもそうです。「イーシャーヴァースヤム イダム サルヴァム」（あまねく宇宙には神が浸透している）。シヴァ神の力は宇宙全体に浸透しています。人間の第一の義務は、イーシュワラットワ（シヴァの神性）を愛することです。実は、同じ神の力は、すべての人の体に内在しています。ちょうど人間の体が服で覆われているのと同じように、神もまたマーヤー（迷妄）で包まれています。それゆえ、イーシュワラットワは遍在ですが、目には見えないのです。「イーシュワラ サルヴァ プータナム（神はあらゆる生き物の内在者である）」という金言に従って、イーシュワラットワは生きとし生けるすべてに浸透しています。このイーシ

ユワラットワは年齢を超越しており、外見とはまったく関係がないのだと、パールヴァティーは説明しました。

—2007年2月17日の御講話

ヴィブーティ アビシェーカの意味

36. シヴァラートリの祝祭は、ここでも祝われているように、皆さんのための模範です。あなた方はこう尋ねるかもしれませんが。「スワミはよく、どの日も聖日であり、特定の日（お祭りの日）に守らなければならない特別な儀式や儀礼はないと、おっしゃっています。しかし、スワミご自身が神像にヴィブーティ（聖灰）を浴びせ、それをアビシェーカ〔灌頂〕とお呼びになっています。これは正しいことなのですか？」スワミがそうしているのは、皆さんに教訓を与えるためです。

1974年2月20日の御講話

37. 神の栄光を讃えるためにあなたが神に差し出すことのできる捧げ物のなかで、焦燥感を掻き立てる欲望への勝利を意味する灰以上に素晴らしいものがあるでしょうか？ 灰は物体の最終的な状態です。灰がさらなる変化を被ることはあり得ません。ヴィブーティを注ぐアビシェーカは、あなたが欲望を捨て去って、これまで得てきたすべての品々の中で最も価値あるものとして、

欲望の撲滅の灰をシヴァに捧げることを、鼓舞するために行われるのです。灰は、花のように一日や二日で萎れることはありません。灰は、水のように蒸発して消えてしまうことも、汚れて飲めなくなることはありません。灰は、葉のように数時間で色あせることも、果物のように数日で腐ることもありません。灰はいつまでも永遠に灰のままです。そのように、あなたの邪悪、悪徳、悪い癖を燃やしてシヴァを礼拝し、思考と言葉と行いにおいて自らを清めなさい。.

—1974年2月20日の御講話

蛇の意味

38. クンダリニー ヨーガの科学によると、人間の生命エネルギー〔クンダリニー。とぐろを巻いたもの意〕は、脊柱の底部にある最も低い位置のチャクラ（超意識の軸）であるムーラダーラで目覚めて覚醒し、残りの六つのチャクラを通して頭頂部のサハスラーラ（千の花卉を持つ蓮の意。エネルギーセンター）まで上昇していきます。クンダリニーの通路は、脊柱の軸にあるスシュムナー管です。迷信だと冷笑される蛇礼拝は、活力と生命力を授けるこの偉大なヨーガの修行の象徴に該当しているのです。

—1974年2月20日の御講話



Sri Sathya Sai Scriptural Studies Committee

シュリ サティヤ サイ文献研究委員会